

(資料2-3)
第3回ヒアリング時における
高田部会長 取りまとめ資料

第3回 県立都市公園のあり方検討会 明石公園部会

2022年8月17日（水） 10:00～17:00

@明石市役所

これまでの部会の議論から

- 明石公園には，自然，史跡，スポーツなど多様な価値がある
- あり方検討会での議論を通じて，明石公園の多様な価値を抽出していく
- 明石公園の多様な価値をふまえながら，これからの明石公園の将来像を描いていく
- 陸上競技場，野球場に関しては，今後も公式大会で使い続けられるような維持運営を
- 障がいをもつ人びとも明石公園を楽しんで使えるように環境整備を

これまでの部会の議論から

- 明石公園の石垣については阪神・淡路大震災で崩落した個所が多くあった
- 今後も大きな地震で崩れる可能性のある個所が残っている
- 明石公園で自然環境と石垣の保全を考えていくためには、具体的に石垣の状況と樹木との関係を現地でみていくことが大切
- 明石公園のこれまでの取り組みと現状をみんなで検証しつつ、管理者や利用者が一緒に対話しながら明石公園をマネジメントするための場（しくみ）が必要

陸上競技場について

- 明石公園は陸上競技の聖地のような場所
- 城跡が見える陸上競技場という魅力
- 芝生でグラウンドゴルフができる貴重な環境
- 補助競技場も使えるようにできないか
- 公認のためレーン幅を改修，写真判定機の更新が必要
- 県民に愛され，安全・安心な陸上競技場のために付帯設備を整備
- 子どもたちの健康な体と心を育む場として
- 障がい者も一緒に使えるようにトイレを更新
- 酷暑への対応を(スタンドのひさし，ブルートラック，天然芝など)
- 改修計画を決定すれば2023年度中は公認が可能

野球場について

- 野球場の環境(特に芝生)は素晴らしい
- 高校野球の地方決勝だと1万人ほどの観客
- 明石球場は現状では集客力が乏しい(多くの人が出入りするのに危険な場所も)
- スタンドについては雨漏りなどの老朽化がひどい
- 車いす利用者も観戦できるような環境整備が必要
- 適切に日陰をつくり，夏も安心して観戦できるスタンドを
- 少年野球など，どの団体が，どの程度の頻度で使用しているのかの情報を共有

競技施設全般について

- 駅からのアクセスのよさが大きな魅力
- 駅前にあることは、**運転免許をもっていない障がい者**にとっても貴重な施設
- 障がいの有無，国籍，ジェンダーにかかわらず一緒にスポーツを楽しめる**ユニバーサルスポーツ**，**インクルーシブスポーツ**の聖地として
- **全国規模の大会**を開催できれば魅力発信にもなる
- 競技者の立場に立つと，シャワー室は必要ではないか
- 競技場施設を維持するために必要であれば，おとなの利用料を上げることも検討すれば

こどもの村付近の特徴

- 駅に近い公園で、平地で、豊かな自然が残っている
- 探鳥会をすると100名近く参加することもある
- こどもの村付近でシジュウカラなどが繁殖している
- 色んな昆虫や植物に出会える場所
- 照葉樹のある土壌環境を残して学ぶ場を(土に触れる機会)
- 公園北部はうっそうとしているので、剪定などの適切な整備作業は必要
- 子どもの村周辺で整備のために木を切るときには、どの木を切るのかを一緒に考えたい
- 現在、年間を通じて野鳥の調査を実施中なので今後情報を共有

インクルーシブ遊具の整備について

- 北部は貴重な鳥などを観察する学びの場として活用できないか
- 森に棲息する小鳥類が多い貴重な環境をふまえて、インクルーシブ遊具の設置を検討
- 自然を五感で感じられる場所こそがインクルーシブな場
- 人工物が少ないからこそ体験できることを実現(創造と想像)
- 剪定した木の枝などを子どもたちと使う機会も重要
- 障がい者もアクセス・利用しやすい場所(こども広場, なかよし広場, 市立図書館跡地など)を活用してはどうか
- 手づくりの遊具で遊べるような環境をこどもの村付近で
- 視覚障がい者のための遊具についても検討する必要がある

インクルーシブ遊具の整備について

- こどもの村付近に遊具だけ整備しても使いづらくなるので、駐車場、アクセス道、トイレなど公園全体のなかで施設を検討する必要がある
- 身体の障がいだけでなくASDの子どもにとっても遊びやすい場を
- 早期にインクルーシブな場を実現してほしい(逃げる場、着替える場なども必要)
- 偏見なく障がいの有無に関係なく、誰でも自由に遊べる場所を
- 他の公園利用者の理解やサポートも重要
- 地形を活かして、つくりこみすぎず、インクルーシブな動きをつくるのが大切
- 自然の空間に溶け込むような遊具のデザインを
- 安全安心に遊べるスペースと、日陰をきちんと確保すること

明石公園の生き物

- 30種類程度の希少な昆虫が生息している
- 城跡の周辺に棲息していた昆虫が伐採によって減少した
- 伐採したことによって増えた昆虫もいる
- 公園内に施設を整備する際に、昆虫が生息できるような工法を検討してもらいたい
- 昆虫の棲息状況については夏場に週に2回、冬は月に1回程度観測しているので、今後共有していきたい
- 害虫による樹木の被害については、樹木の健全度を保つことがまず大切
- 堀のカモが生息できるように工夫を

明石公園全体の使い方

- プレーパークなど、自由な発想で、いろいろな人が遊べる場所を
- こどもはロープ1本、板1枚でも遊べる
- 明石公園全体をインクルーシブな使い方ができるように検討を
- 明石公園は環境がよいので、支援が必要な子どもたちが学ぶ学校などを公園内に整備できたら
- 明石公園を市民団体などが主体となって活用(ネイチャーツアーなど)するための方策やしくみを考える
- 公園の様々な活用について実験的に進めていけたら
- 森の中にある公園、競技場として捉える視点が大事

明石公園全体の使い方

- 午前の子連れのお母さん、午後は高齢者が多い印象
- 利用者の利用時間帯、実態についてもデータが必要
- 安全な場所で子どもを自由に遊ばせるスペースが重要
- 公園内でバリアフリーでない場所が多くみられる
- 車いすを使っていると、明石公園が使いづらいと感じる(トイレが古い、砂利の園路など)
- 特に入り口から競技場に向かうまでの園路、あるいは車いす利用者のための駐車場からの動線をバリアフリー
- 施設の老朽化が著しいのでメンテナンスが必要

明石公園の景観について

- 城跡に沿って設置されているコンクリートブロックの配置が課題
- 城跡ライトアップのための設備の配線が景観を損なっているの
で改善が必要

対話の進め方について

- 明石公園の年間予算など前提を共有したうえで個々の改修などの計画について議論したい
- 公園の管理と運営はわけて考えた方がよい
- これまでの明石公園にかかわる計画などについての情報を適切に共有しながら、あり方検討会での話し合いをもとに整備を進めていく
- 明石公園の現状(自然や利用など)についてのデータと情報を共有しながらあり方を検討してほしい
- 子どもたちの声を聞きながら公園のあり方を検討していききたい
- 「みんなの公園」「我が庭」としての明石公園
- 樹木管理については樹木医にも意見を聞く必要がある
- 色々な季節、時間に明石公園の現地を確認しながら議論する機会が必要
- 時間軸をふまえた明石公園のあり方を議論する必要がある